シンボルマーク

# 会報 防災だより

2011
VOL.6
3月31日発行

## CONTENTS

1．ご　挨　拶 …… 会長　大　黒　裕　明　2P
2．夕陽スポット …… 大　黒　裕　明　2P
3．視察研修 …… 3P
4．防災士養成講座 …… 4・5P
5．防災講演会 …… 5P
6．各ブロック研修 …… 6・7P
7．災害時要援護者支援事業 …… 7P
8．趣味をもとう …… 沼　田　芳　秀　8P
9．会員事業所紹介コーナー … 南部バス株式会社　8P

題字揮毫　大黒会長

発行所●八戸地域防災協会　事務局●消防本部予防課内　八戸市内丸一丁目１番２号 ☎(0178)４４－２１３３

# ご挨拶

八戸地域防災協会
会長　大黒裕明

日頃は当協会の活動に深いご理解とご協力をいただきありがとうございます。ここに防災だより第6号をお届けします。

さて、昨年当協会では秋田の石油備蓄基地を視察してまいりました。八戸でも数年後にLNG輸入基地が稼働を開始するため、大型のエネルギー施設がどのような防災設備を整えているのか大変興味がありましたが、そこで、めったに見られない眺めに出会いました。

石油タンクの蓋というものは固定されておらず液面を覆い隠すように乗せられているだけなのですが、着いた時はちょうどタンクの油を全部排出して内部の大掃除をしている最中でした。ですから蓋が一番下まで届いている状況を上から見下ろすことができたのですが、知識として知ってはいても実際にそのさまを自分の目で見、何やら深く納得させられました。倉庫の中も拝見しましたが、万一の時の消火活動のための資材や薬剤が、金額にして数億円分も常時設置され、定期的に更新されているそうです。正直なところもったいないなと思いましたが、でも考えてみればこの設備が無駄のままで終わるというのは、とても幸せなことなのでしょう。

八戸で計画されている基地は14万キロリットルのタンクが二基（もう一基増設可）、一基の大きさは、高さが50メートル以上、直径が90メートルもあり、まちのどのビルよりも大きく、東北・北海道を通して最大規模で、当然安全管理には今まで以上に慎重な対応が必要となります。先日八戸市内でLNGフォーラムが開かれ、このプロジェクトは地域活性化に大いに貢献するだろうという意見が多数出ましたが、あくまでも安全が維持され続けての話だということを心に刻まなければなりません。

秋田では大潟村も視察してきました。干拓地は先人たちが夢を実現したユートピアと言って良いでしょう。現実には様々な問題があり苦労が絶えないとしても、今そこに住んでいる人たちが自らの努力で解決しようとしている姿には頭が下がりました。

いかがですか、皆さん方も次回の視察にご一緒しませんか。

# 夕陽スポット

大黒裕明

男鹿半島を南下してバスは秋田市に向かっていた。視察の予定をすべて終え、後は宿舎で夕食があるばかり。海岸沿いの長い直線道路は、それが設計の意図だったかと思わせるほど心地よく体を揺さぶり、一行の半分くらいはまどろんでいた。

ふと窓の外を見ると、水平線の上の空が薄赤く染まり、太陽がその中に浮かんでいた。

「夕焼けだ。素晴らしい眺めだ」

すると後ろの席から、

「雲がないと却って赤くならないんだね」

前と後ろで感想を言い合っていると、ガイドさんが、

「寄り道して見物しますか。近くに夕陽スポットがあるんです」

歓声が起こった。いつの間にか全員が目を覚まし、期待に瞳を輝かせている。

やがてバスは岸壁の方に曲がり、小さな公園に着いた。眺めの良さそうな高台がすぐ近くにあることにだれもが気付いた。既に何人かが場所を取っている。バスを降り、ぞろぞろと丘を上ると、初秋の風が柔らかく流れていた。

夕陽は、もう、いつ海に飛び込んでも良いくらいの高さにいた。

「こんなに雲の無い日本海って珍しいんじゃないかな」

誰かが蘊蓄を傾けようとすると、

「日没の瞬間に、ジュンって音がするから静かに」

他の人がかき回して笑いを誘う。

いよいよショーが始まった。時間にすればほんの一、二分だろうが、その間誰も声を出そうとしない。それぞれに、自分だけの世界にどっぷりと浸っている。太陽が完全に姿を隠したら拍手が鳴り、零れそうな笑顔をした人達は、またぞろぞろとバスへ戻り始めた。

「いやあ、感激」

お互いに頷き合っている。私も感激、夕陽にだけでなく、夕陽に感動する気持ちをまだ持ち続けている同行の人たちの若い感性にも感激した。

## 八戸地域防災協会の視察研修会へ参加して

東北電力㈱八戸火力発電所
風間光夫

八戸地域防災協会（事務局八戸消防本部）より秋田国家石油備蓄基地視察研修会を10月に実施との案内をいただき、当方の防災関係の業務からまたと無い機会と思い自ら手をあげ当所所長へ事情説明し参加しました。

石油コンビナート等災害防止法等の関連業務で、現地には数回打合せに出向いており、また前任地が秋田県能代市で、近くまではたびたび行ってはいましたが、現地の基地内を視察したのは今回が初めてでありました。

視察研修会にて、途中秋田県能代市の近傍をバスにて通り、風景を見ながらバスガイドさんの話を聞いているととても懐かしく、つい最近まで業務に当っていたこと、また職場の同僚などが思い出されました。

現地視察では、基地内設備の説明と地下タンクの内部点検状況や、海上に監視船を走らせた大容量泡放射システムの実機放射訓練等を目の当たりにすることが出来ました。

事前学習にて石油備蓄基地の設置経緯や、設備の状況について基礎知識はつけていったつもりでありましたが、百聞は一見に如かずで、貯蔵スケールの大きさに驚くと共に、法令遵守、保安管理、安全第一、環境保全等の取扱いで非常に参考となり、業務改善による業務品質の向上など見習うべきものも多くありました。構内も非常にきれいに管理されておりました。

前任地の職場の関係から石炭管理については深い知識？はありましたが、石油に関しては当所の設備本位に陥り易く、今回他社設備を見ることで思考の幅が広がり今後の業務を進めて行く上からも非常に役立つものとなりました。

基地側の視察対応をしていただいた方々は以前より面識があり、事前に今回の視察に当たり当方も参加するとの連絡をしたとき相手先からは、「視察対応は不慣れであまりうまくいくかどうか心配なんです。」との返答がありましたが、当日は懇切丁寧な説明や対応がなされ十分であり申し分なく思いました。

基地側対応者の日常業務の重責を全うすべく責任感と、自信に満ちた説明や対応が印象的でありました。

今回、八戸地域防災協会の多種業種の会員約30名の方々と名刺交換や、コミュニケーション活動等を通じて知り合えたことも当方にとってはとても有意義なことでありました。

火力発電所の業務では、地域の方々と接する機会は少なく、これからの人生においても貴重な経験となり財産になると思います。

今回の視察研修を通じて保安管理・安全管理の重要性を再認識し、今後も無事故・無災害及び安全第一に取り組んでいくことを誓った次第であります。

最後に、この視察の機会を計画され場を設定して下さいました八戸地域防災協会及び事務局の八戸消防本部の方々に深く感謝申し上げます。

## 秋田国家石油備蓄基地視察研修会

総合リハビリ美保野病院
斉藤美木

石油は、現代社会において欠くことの出来ない資源です。オイルショックや戦争などで需要が変動したときに備えて、日本には全国に12の備蓄基地が作られています。秋田国家石油備蓄基地もその中の1つになります。備蓄量は、約395千キロリットルで、国内消費量の1週間分に相当します。この石油備蓄基地とそこに配備されている大容量泡放射システムの取扱訓練を、昨年10月に行われた八戸地域防災協会の研修で見学させて頂きました。

様々な施設がある基地内は広大で、バスでの見学となります。秋田国家備蓄基地で特徴的なことは、最大級の地中式タンクが12基配置されていることで、このタンクは、地面の下にあるため地震に強く、油の流出の心配がなく、温度管理も容易です。また景観への影響も少なくてすむのでとても優等生なのです。何より、事故に見舞われた際も、消火活動などの作業性にたいへん優れているのです。記憶に新しい平成15年9月に起きた十勝沖地震による苫小牧市で起きた重油タンク火災は、出火してから44時間も燃え続けたそうで、重油タンクの消火活動の難しさと恐怖を感じます。地中式タンクであれば、速く消火できたかもしれないと考えてしまいました。

タンクは、1基毎に空にして点検が行われており、今回この空のタンクを見学することができました。バスを降りて、タンクの地上部の作業階段を登ると、足下には直径90メートル、深さ50メートルの巨大な穴があり、下で作業している人が小さく見えます。あまりに大きいので、まるで山や湖などの景色のような感じがして高さや広さの感覚がつかめないほどでした。

最後に、八戸市の重油タンクが出火した場合には、広域防災組織に則って、秋田から大容量泡放射システムが防災活動のため出動になるのだそうです。万が一の事、それは資源供給が停滞したり、災害に見舞われたり、様々な事が挙げられます。その時に備えた取り組みや訓練が、私達の生活を陰から支えてくれていたのだと知り安心しました。

今回の視察研修会に参加させて頂き、皆様にお世話になりました。ありがとうございました。

# 防災士養成講座を受講して

八戸市防災安全部防災危機管理課
田名部　幸　衛

八戸地域防災協会が行う防災士養成事業として、防災士研修センター主催の防災士養成講座を受講させていただき、防災士の資格を取得しました。この場を借りてお礼申し上げます。

## 1　経緯

職場には既に防災士が2名おり、高い防災意識・幅広い知識で防災対策を担う職場をリードする存在でしたので、以前から防災士の資格取得に興味がありました。このようななか、今回のお話しをいただきました。

## 2　防災士とは?

阪神・淡路大震災では、大規模な災害が発生した場合、行政機関の救助・救援がすぐには期待できず、地域の総合的な力により、災害に備えることが必要であることが明らかになりました。このようなことから、防災士制度は、防災の意識を高く持ち、防災についての基礎的な知識、技能を身につけた人材を防災士として育成し、社会の防災力の中心になってもらおうと作られたものです。

## 3　救急救命講習

防災士になるためには、救急救命講習の受講が必要ですので、八戸消防署主催の普通救命講習Ⅰを受講し、心肺蘇生法とAEDの使用方法を学びました。

## 4　レポート作成

会場研修が始まる約1ヶ月前に、防災士教本、履修確認レポート等が送付されてきました。全31講からなる防災士教本を読み、履修確認レポートを完成させ、提出する必要があります。その中で特に重要な講目は、会場研修で講義を行います。

防災士教本は、防災に関する基礎的な知識を幅広く網羅しつつも、コンパクトにまとめたもので、仕事で得られた断片的な知識を整理するのに役立ちました。

## 5　会場研修

会場研修は、仙台市で、10月30日、31日の2日間に渡って行われました。

座学に加えて、演習（DIG［Disaster Imagination Game］及びHUG［避難所運営ゲーム］）を行いました。

DIGは、知識としては知っていましたが、実際にやるのは初めてでした。地図上に、地形の特徴、公共施設、避難所等をペンで色付けし、災害による被害予測を記入していきます。この演習は、災害を自分のこととしてリアルにイメージするのに役立ちます。

HUGは、二度目でしたので、次から次へと生じる課題に何とか対応することができました。初めてHUGを体験した人たちは、対応に非常に苦慮しているのが分かりました。一度経験するだけでも、対応に雲泥の差が生じると感じました。

## 6　試験

会場研修後、資格取得試験が行われました。試験時間は50分。30問出題され、回答方法は三択式。70点以上で合格です。試験は難しいものではありませんでしたが、絶対に合格しなければならないというプレッシャーを感じました。

## 7　まとめ【自助：共助：公助＝7：2：1】

大規模な災害が発生すると、行政機関そのものが被災し、また、通常の何倍もの業務が集中するために、初動時、行政機関は「一刻も早く被災者を助けたくても、助けられない」という状況に陥る可能性が高いことから、「自分の命は自分で守る」、「自分たちのまちは自分たちで守る」ことが重要であり、自助7、共助2、公助1という考え方が必要であるということが最も印象的でした。

平常時から事前対策を行うことによって、被害は大幅に軽減できます。皆さん、自分の命を守るために、耐震補強と家具固定から始めませんか?

# 防災士養成講座を受講して

八戸市防災安全部防災危機管理課
田　村　嘉　共

私は、平成22年4月から新採用として八戸市庁に入庁し、防災危機管理課に配属になりました。

4月当初は防災の「ぼ」の字も分かりませんでしたが、防災士養成講座を受講する機会をいただき、2日間に渡り防災士の役割や災害のしくみなどについて学んできました。

講座を受講するまでは、そもそも、防災士とは何をする人のことをいうのか分かっていませんでしたが、何か難しいことをするということはなく、災害が発生した時に、防災のリーダーとして、率先して応急対応したり復旧の支援をする人のことです。こう言われると、支援すればいいんだと心の中で思うだけで終わってしまわないでしょうか。実際に災害が起きたとき、パニックにならず冷静に対応し、自分の家族のことだけでなく他の被災者の支援をする余裕がないのが現実ではないでしょうか。こうなってしまうのにはいろいろ原因はあると思いますが、その中の一つとして、災害時に、具体的にどう対応すればよいのか分からないということが考えられると思います。

こうならないために、災害についての知識を身につけようとしたとき、自力で勉強するとなると何から学べばいいのかわからなかったりします。防災士養成講座は、どう対応すればよいのかとか災害のしくみなどを効率よく学ぶことができるので、防災関係の仕事をされてない一般の方にとっては非常に有意義な講座だと思いまし

た。また、講師の方も名誉教授だったり消防庁に勤めていたことがある方だったりと、その道のプロの方が講義をしてくれるので、さまざまな切り口で解説してくれました。

これまで防災について、水と非常食を準備しておけばいいだろうくらいしか考えず、大規模な災害なんて起こらないだろうと、心の中で何の根拠もなしに思っていましたが、講師の方のお話を聞き、災害はいつ起こってもおかしくないことや、災害が起きてから復旧するまでどれほど大変なことなのかを、ある程度具体的にイメージすることができ、大規模な災害が起こることを身近に感じさせられました。

今回講座を受講し、自分が防災についてどれだけ知らなかったのか思い知らされました。また、その知らなかったことが、知っておけばいいものではなく、知らなければならないものばかりだったので、とても有意義な講座でした。そして、自分たちでできることが身近にたくさんあることがわかり、自分たちでできることが災害から身を守るために大きな効果があることもわかりました。

災害が起きたとき、市役所や消防がなんとかしてくれると思ってしまいますが、大規模な災害の場合はほとんど機能しないことを知り、頼るのは自分自身しかいないんだと気づかされました。この講座は、自分自身でなんとかしなければならないんだと思ってもらえる重要な講座だと思いました。そして、たくさんの方に受講してもらい、正しい防災の知識を身につけていただきたいと思いました。

## 防災士養成講座を受講して

エスプロモ㈱
坂本久直

防災士を受講しませんか?さてどのようなものか、○○士と名のつく資格は数ありますが、防災士も初めて耳にするものでした。自身でも興味があるのと尚且つ、我社が管理する八戸市運動公園体育施設はほとんどが災害時の避難所に指定されていることから受講することといたしました。

受講は仙台市で実施され、東北各地から受講者がおりましたが、そのほとんどが中高年であったことが驚きでした。皆、明日は我が身ではありませんが災害の脅威を感じながらの講義は真剣でした。

さて、研修内容はまず日本は世界でも災害を受けやすい条件の下にあり、ある日突然予告なく全国どこでも起こる国であることを改めて事例を交えて知ることとなりました。

災害の様相が深刻化、災害の規模が大きいほど自治体消防、警察、自衛隊などの活動は制限され限界があり、行政そのものが被災・人手不足・現場到達までの時間を要する等、すべてを網羅した完璧な防災対策は不可能だということを知りました。

実習は被害想定・ハザードマップをグループになって作成しました。

災害環境は地震や集中豪雨など急激な自然現象が起きた時は自分のいる場所によって災害のタイプは異なることが良く理解できるものでした。

では私たちはどうすればいいのでしょうか?災害が発生したらその被害の軽減しかないのです。そこで学んだのが自助・共助・公助の効率的な組み合わせで実現されることです。自助は自分の命は自分で守る!

阪神淡路大震災では亡くなった8割の方が地震直後の家屋や倒れてきた家具等での圧死であること。普段から住宅の耐震や家具の転倒防止を行うことが必要です。共助は隣近所や民間組織など助け合って救助・救護活動する互助と、各種ボランティア等が協力して活動する協働。公助は行政機関等の公的機関による救助・救護活動です。

いくら事前に危機管理の計画を作っていても現実に災害に直面した時うまく機能しない場合もあり、本当の危機管理とは皆の意識の中にあると言え、危機に遭遇した時その場に合わせた応用動作が出来る心の備えをしていることが大切です。

この度の防災士養成講座を受講し、今後、自身として取り組んでいこうと思うことは、自分の居住地域の防災訓練等の行事に積極的に参加することや、職場においても防災に対する知識・意識を高めていき、地域社会や企業において備えて行くことが大切だと感じました。

## 防災講演会

昨年十二月三日（金）八戸プラザホテルにおいて、荒沢弁砂明氏（John Benjamin Bill）を講師に迎え「我から見た日本」と題して防災講演会を開催し、会員・関係者百十名が受講しました。

講演会は、弁砂明氏の英語スピーチから始まり、アメリカンジョークを交えながらの日米の文化の違い等を八戸弁で講演して頂き、聴講したものみな驚きと笑いに包まれていました。その後、弁砂明氏を囲みながらの懇親会を開催しました。

## 八戸東消防署管内 視察研修会

平成二十二年十一月四日（木）

八戸東消防署管内の協会加入事業所から四十七名が参加し、八戸市立市民病院の視察研修会、場所を八戸シーガルビューホテルに移して懇親会を行いました。

当日は救命救急センター所長兼臨床研修センター所長の今明秀先生が講師を務められ、ドクターヘリの実績と有用性について説明頂きました。

ドクターヘリの運航で「プリベンタブル・デス（防ぎ得た死）」を減少させ、『劇的救命（蘇生率数％からの救命）』に繋がる症例が増加したことが紹介されました。ドクターヘリは半径五十km圏内で威力を発揮すること。また、八戸市は市街地でありながら、ヘリが活用できる地理的条件が整っていること。・・・など研修会に参加した協会員は救急救命の知識を深めたものと思われます。

最後に『劇的救命』を目指す熱いハートを持った救命医が身近にいることを心強く思いました。

## 八戸北消防署管内 視察研修会

八戸北消防署管内では、平成22年八月二十四日（火）に二十一名が参加し、視察研修会を実施しました。

「岩手県立博物館」と「盛岡手作り村」を見学し、隣県岩手の文化や歴史に触れてきました。

また、昼食では「そば処東屋」でわんこそばを会員同士が競いながら食べ、親睦を深めることができました。

## 三戸消防署管内 視察研修会

八月三日、八戸地域防災協会三戸ブロックの会員を対象に、視察研修会を開催しました。研修会には、三戸町、南部町、田子町の各事業所から多数の参加者があり、また三戸消防署員の皆様にも多数参加して頂きまして、この場を借りてお礼申し上げます。

視察研修は「岩手県立総合防災センター」と国指定特別天然記念物「岩手山焼走り熔岩流」を視察してまいりました。総合防災センターは岩手県消防学校と併設されている施設でしたので、バスが到着すると、学校のグランドでは、若い消防隊員の訓練風景が目に入り、小雨の中にもかかわらず一心不乱に訓練する姿を見て、頼もしさと若いエネルギーをもらいました。

総合防災センターでの研修は過去の災害を実際の映像で見せていただき、改めて災害の恐ろしさを学んだ思いです。また、起震装置による地震体験や、迷路での煙体験などは、実際に体で感じ覚える研修であり、とても参考になりました。会員の方々も熱心に研修されていたようです。

昼食は盛岡市内の焼肉屋で懇親会も兼ねて行いました。最初のうちは参加者たちも、半数以上が初対面のためかあまり会話も無いようでしたが、少しアルコールも入ったせいか徐々に会話も弾み、急速にお互いの親睦を深めることができたと思います。やはり堅苦しい研修ばかりではなく、飲食等で交流を深めたことにより、会員同士の横の繋がりが非常に大事であると再確認いたしました。

最後は「岩手山焼走り熔岩流」の跡を見学しましたが、噴火後二百八十年余り経った今でも、殆ど植物が生えることのない黒々とした溶岩が突然山中に現れ、予想外の広さに驚き、自然の威力をまざまざと見せつけられた感があります。

帰りのバスでは、様々な話が飛び交い、有意義な情報交換の場となりました。また、消防署員の方々にはバスでの移動の際にも防災に関する雑学クイズ等の工夫をして頂きまして、飽きることなく研修を終えることができました。例年にない、実りある研修であったと思います。

次回開催時は、更に多くの会員の方に参加して頂き、防災に対する認識を深め、広げて行ければと願っております。

# 五戸消防署管内視察研修会

八戸地域防災協会五戸ブロックでは平成二十二年八月二十四日（火）に五戸地区婦人消防クラブ連絡協議会と合同で視察研修会を実施しました。

今回の研修会へは三十九名が参加し、「デーリー東北新聞社」「グレットタワーみなと」「八戸水産科学館マリエント」「八戸市立市民病院」の四施設を見学しました。

当日は朝から天気が良く、多少汗ばむ暑さではありましたが研修会日和となりました。

目的地までの車内で防災協会の木村健一理事から挨拶をいただきました。

初めに訪れたデーリー東北新聞社では、原稿の作成部屋や、工場など新聞製作の裏側を見る事ができ、より地元新聞への愛着がわきました。また、グレットタワーみなとから見た壮大な景観は、港町八戸の素晴らしさを改めて知ることができました。

その後、マリエントにて休憩と昼食をとり午後からは八戸市立市民病院にて今話題のドクターヘリとドクターカーの視察を行いました。現在南部地方を中心に素晴らしい活躍を見せているドクターヘリとドクターカーを間近で見学でき、地域住民にとって大変心強い存在だと再認識することができました。

今回の研修にて、報道及び医療の裏側を学ぶことができ、また、八戸の美味しい料理や綺麗な景色を堪能でき大変有意義な一日となりました。

災害時要援護者支援事業

# 火災警報器を無償取り付け

昨年十一月十五日から十七日までの三日間、八戸消防本部と合同で、高齢者世帯、身体障害者世帯に、住宅用火災警報器の寄贈設置を実施しました。

今年度は、八戸市、五戸町、新郷村の八十五世帯に対し、住宅用火災警報機器九十八個の寄贈設置と火気使用機器器具・水廻りの点検整備と併せて、たこ足配線や火気取り扱いなどの注意を呼びかけました。

この活動は、旧消防設備協会が昭和五十三年から電気・水道の点検整備と防災機器の寄贈設置、旧防火管理者協会が平成九年から自動消火装置等の寄贈設置をそれぞれ実施してきましたが、合併後も社会福祉事業の一環として、引き続き実施しているもので、災害時要援護者世帯の火災・災害からの被害の軽減と防災意識を啓発して、災害のない明るい街づくりを推進することを目的としています。来年度以降も、計画的に実施する予定となっておりますので、会員皆様のご協力をお願い致します。

# ご存知ですか？

芦森興業㈱製消火栓用ホースの一部が消防法令上の規格に適合しない製品があり、自主回収しています。下記対象製品に該当するホースを発見された場合「ホース回収窓口」にご連絡ください。

**お問い合わせ先**：芦森工業　消防用・消火栓用ホースご相談窓口

☎0120―329―448

【対象製品】

| 区分 | 使用圧 | 呼称 | 自主回収対象 型式番号 | 自主回収対象　製造年 すでに公表した製品(2010/1/29) | 新規追加製品 |
|---|---|---|---|---|---|
| 消火栓用 | 0.9 | 65 | コ第53～32号 | | 2004, 2008 |
| | | | コ第53～32～1号 | | 1999～2007 |
| | | | コ第61～13号 | 2004, 2006～2008 | 2002, 2005 |
| | | 65/50 | コ第12～7号 | | 2000, 2001, 2003～2008 |
| | | 50 | コ第12～3号 | 2008 | |
| | 0.7 | 40 | コ第4～14号 | | 2007, 2008 |
| | | | コ第7～28号 | 2003, 2004 | |
| | | | コ第10～4号 | 2000, 2001 | |
| | | | コ第15～27号 | 2004, 2005, 2006 | |
| | | | コ第15～42号 | 2005, 2008 | |

# 訃報

当協会副会長　苫米地吉友様（享年六十三歳）が、平成二十二年十二月十三日午後療養中の八戸市立市民病院で逝去されました。謹んで会員各位にご報告いたします。

葬儀は十二月二十日午後一時よりプラザアーバンホールにて、ホテル関係者、各種団体代表の参列者の下、しめやかに執り行われました。

当協会からは、大黒会長の他、多くの副会長、理事、会員が出席され、協会を代表いたしまして大黒会長が弔辞を奉呈され、在りし日の苫米地副会長の遺影に永遠のお別れをしてまいりました。ご冥福をお祈りいたします。

# 趣味をもとう

## 遊び心を大切に

ＪＸ日鉱日石エネルギー株式会社
八戸油槽所
沼　田　芳　秀

「趣味」、辞書を引くと、①あじわい。おもむき。②おもしろみ③美しさ・おもしろみの分かる能力。と、あります。はばかりながら、それらを「もとう」何てお勧めするわけですから、非常に恐縮するばかりです。

もう、かれこれ六〇年近く、世の中の変遷に身を委ねておりますが、遊び心だけは今でもしっかりと離さず持っております。過去をたどりますと、実に多くの趣味らしきものが、あったようです。

めんこ、ビー玉から始まって、切手や漫画単行本の収集、海や川での釣り、スキーやスケート、そして高校生あたりからは、音楽鑑賞が加わり、更にレコード収集、オーディオ製作、バンド演奏へと発展して行き、今でもバンド活動はライフワークのひとつになっております。

海と山に囲まれた日本にあって、転勤の多い私にとっては、じっとしていられる訳が無く、カメラを担いで野や山に、竿を担いで川、海へと、感動を求めて飽くなき探求が続くのであります。因みに、これらを総じて家人は「道楽」と呼んでおります。

「道楽」とは、①本職以外の物事にふけり楽しむこと。②ものずき。③不身持。と、有りました。①②は趣味とそんなに変わらないかな～と思うので、ちょっとだけ気が楽になります。しかし、③が非常に気掛りです。「ふみもち」と読みます。意味は「品行が悪いこと」と、あります。気を付けたいです。悪趣味は趣味ではないのです。そして、趣味は?と聞かれて「釣り」、「写真」と答えても、ゴミを捨て帰ったり、木の枝を折ったりしては、単なる道楽に過ぎないのです。「勝手な感動」だけでは趣味に至らないのですね。

これからもマナーを守り、生来の遊び心を大切にして、純粋に感動する気持ちと探究心を持ち続けたいものです。

## 会員事業所紹介コーナー④

南部バス株式会社は、八戸市を中心とした青森県南と岩手県北で、路線バスと貸切バス、高速バスなどのバス事業を主体としている会社です。

昨年より八戸～東京間の高速バスを、「ウィラー・トラベル」と提携し、高速ツアーバスとしてリニューアルしました。

注目のピンクのバス「WILLER EXPRESS」は、前方に３列シートの「リラックスワイド」、後方に４列シートの「リラックス」を配置。からだ全体を優しく包み込む快適シートと、すべての座席に付いているカノピーがプライベート空間を演出し、まわりを気にせずゆっくりと休めます。

八食センターとグランドサンピア八戸の指定駐車場に自家用車を無料で駐車し、そのままバスに乗ることができる「パーク＆ライド」も提供中です。

東京までの片道料金は、「リラックスワイド」が7,500円～10,000円、「リラックス」が5,500円～9,000円で、キャンペーン期間中はさらにお得です。

詳しくは予約センター（TEL24-1121）へ問い合わせるか、ホームページをチェックしてみてください。

**南部バス株式会社**
住所：八戸市大字是川字二ッ屋 6-79
TEL：２２－８６１２